

会計区分	01	一般会計
------	----	------

令和6年度 事業評価書

事業主体	06200000	経営企画部 企画課
02 総務費	01 総務管理費	13 定住自立圏構想推進費
-	目標値	-
目標年度	令和6年度	

インプット	事業実施の背景にある課題	今後はこの地域の人口減少、少子高齢化が進み、加速していく見込みである。そうした状況が進む中で、地域社会が抱える課題は多種多様で、そのすべてを1つの自治体だけで対応・解決していくことはより一層厳しくなっていくことが予想される。みのかも定住自立圏における将来推計人口の状況（2018年国立社会保障人口問題研究所）は、美濃加茂市においては、2025年までは増加し、それを境に減少に転ずることが見込まれている。一方、周辺7町村では年々減少を続けていくことが見込まれている。圏域全体の推計人口は、美濃加茂市の増加を周辺町村の減少が上回る形となり、減少していくことが予想されている。				
	対象	圏域に住んでいる人、圏域内外で関係する人				
	目的	圏域の将来像を定める共生ビジョンに基づく各事業の推進により、圏域の暮らしやすさや認知度を高め、圏域内外の住民にとって「住みたいまち」「住み続けたいまち」とすることで、圏域の魅力の向上及び交流人口を増加させ、圏域各市町村の人口ビジョンの目標を達成する。				
	概要	圏域の魅力を向上させるとともに情報を発信し、交流人口の増加と圏域の認知度を上げ定住につなげる。 ・圏域の現状と推移を分析し、将来にわたって住み続けられる圏域となるような計画の策定 ・構成市町村の個性を活かした事業の連携推進 ・各事業主体や担当部署との連携を強化し、事業の進捗管理 ・中心市として、構成市町村を取りまとめ、圏域の連携促進				
アウトプット	事業費(千円)	R02 R03 R04 R05 R06				
	予算額	2,848	1,484	1,238	837	889
	決算額	1,395	204	816	357	133
	年間の事業に要する時間 (正職員/正職員以外)	3,215	/	10		

アウトプット	活動指標(単位)	R02	R03	R04	R05	R06
	共生ビジョン事業実施率(%)	目標値	100	100	100	100
		実績値	100	100	100	100
アウトカム	KPI(単位)	R02	R03	R04	R05	R06
	圏域人口ビジョンの実現(人)	目標値	104,658	104,609	104,560	104,511
		実績値	103,469	102,175	101,828	103,655

評価分析	実績	・重点事業8事業、基本事業12事業を推進 ・事務局担当者会議の開催 ・首長ビジョン懇談会開催 ・みのかも定住自立圏第4次共生ビジョンの将来像、基本計画の策定 ・第3次から第4次共生ビジョンへの引継ぎ評価 ・先進地調査のため圏域職員と伊那市へ視察
	効果	みのかも定住自立圏第3次共生ビジョンに基づいた事業を継続的に実施することにより、1つの自治体ではできない事業等の実施ができている。
	活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	適切な事業評価等を実施し、評価分析したものを次年度の事業内容へと反映させることができるなど、担当課とのコミュニケーションを取りながら進めていくことができた。 KPI指標の変更に伴い、R7年度よりKPI達成率を上昇させるための取組みを活動指標として新たに設定する。
アウトカム	KPI分析 目標値の達成 ・未達成要因	KPIとしては大きすぎる指標であり、事業を実施したことで成果につながる指標となっていないため、R7年度より、共生ビジョン掲載事業KPI達成率へ変更する。
	実績からR07年度の事業の方向性	R7年度で第3次共生ビジョンが終期を迎えるため、第4次共生ビジョンの作成にあたり現状の課題を認識し、それを解消できる事業を担当課と調整しながら立案を進めていく。

会計区分	01	一般会計
大事業	61	6つのまちづくり宣言
	目指す姿	政策体系に基づかないその他の事業
中事業	15	主要な取り組み
小事業	19	総合戦略事業事務費

令和6年度 事業評価書

事業主体	06200000	経営企画部	企画課
02	総務費	01	総務管理費
KPI	-	目標値	-
目標年度	令和6年度		



事業実施の背景にある課題	都市部への人口流出や少子高齢化により、地方では若い世代の減少や働き手の減少等、将来にわたって暮らし続けるための課題が全国的にある。当市においては、若い世代の転入が超過している状態であるが、出生数が減少に転じてあり、人口の自然減は全国的な傾向と変わらない。課題は、出産、子育て、就労等多岐にわたることから、総合的かつ連動した取り組みが必要である。
対象	市民及び市内の団体・企業等
目的	第2期美濃加茂市まち・ひと・しごと創生総合戦略「Caminho (カミーノ)」(令和2~6年度)の進捗を管理する ・総合戦略「Caminho カミーノ」の広報周知及び進捗管理 ・デジタル田園都市国家構想交付金の利活用 ・産官学労金各領域の専門家による総合戦略推進アドバイザーの助言を活用 ・第3期美濃加茂市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定
概要	第6次総合計画のまちづくり宣言「女性若者活躍」を具現化するために、第2期美濃加茂市まち・ひと・しごと創生総合戦略「Caminho (カミーノ)」(兼美濃加茂市女性活躍推進計画)を推進する。 地域が抱える社会課題などを踏まえて、地域の個性や魅力を生かした地域ビジョンを掲げた「地方版総合戦略」を策定し、デジタル技術の活用により、地域の個性を活かしながら、地方の社会課題の解決、魅力向上のブレイクスルーを実現し、地域活性化に取り組む。
事業費(千円)	R02 R03 R04 R05 R06
予算額	1,362 689 24,465 151,211 3,382
決算額	354 12 24,329 150,770 3,231
年間の事業に要する時間(正職員/正職員以外)	1,443 / 0

活動指標(単位)	R02	R03	R04	R05	R06
総合戦略アドバイザー会議の開催回数(回)	目標値			1	4
	実績値			2	4

KPI(単位)	R02	R03	R04	R05	R06
美濃加茂市人口(年度10月現在)	目標値	57,375	57,610	57,803	57,986
	実績値	57,301	57,178	57,219	57,448

実績	・第2期美濃加茂市まち・ひと・しごと総合戦略「カミーノ」(令和2~6年度)の進捗管理 ・総合戦略推進アドバイザーとの懇談会を実施(4回) ・各事業に対するアドバイザーからの意見・評価の聴取及び事業担当課へフィードバックした。 ・デジタル田園都市国家構想交付金を活用し、新規事業1件(デジタル実装タイプ)、継続事業1件(地方創生推進タイプ)を実施。 ・人口ビジョンを改定し、第3期美濃加茂市まち・ひと・しごと総合戦略を策定した。 ・企業版ふるさと納税受入: 450万円
効果	人口は微増であるが右肩上がりに増加している。転入超過である。

活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	第2期総合戦略の進捗管理及び第3期総合戦略の策定において、総合戦略推進アドバイザーの支援を効果的に活かすことができた。 総合戦略推進アドバイザーとより深い議論を交わすことができるよう、個別面談を実施するためKPIを変更する。
KPI分析 目標値の達成 ・未達成要因	人口の社会増減数は増加しているが、自然増減数が減少(出生数が減少に転じている)していることが、未達成の要因と分析する。 令和7年4月に策定した、第3期総合戦略のKPIに基づきKPIを変更する。
実績からR07年度の事業の方向性	新たに策定した第3期総合戦略の目標である「住み続けたい、住んでみたいと思える魅力あるまちをつくる」の達成を目指し、各事業の進捗を管理し効果検証を行う。また、交付金の活用や企業版ふるさと納税の寄附に注力する。

インプット

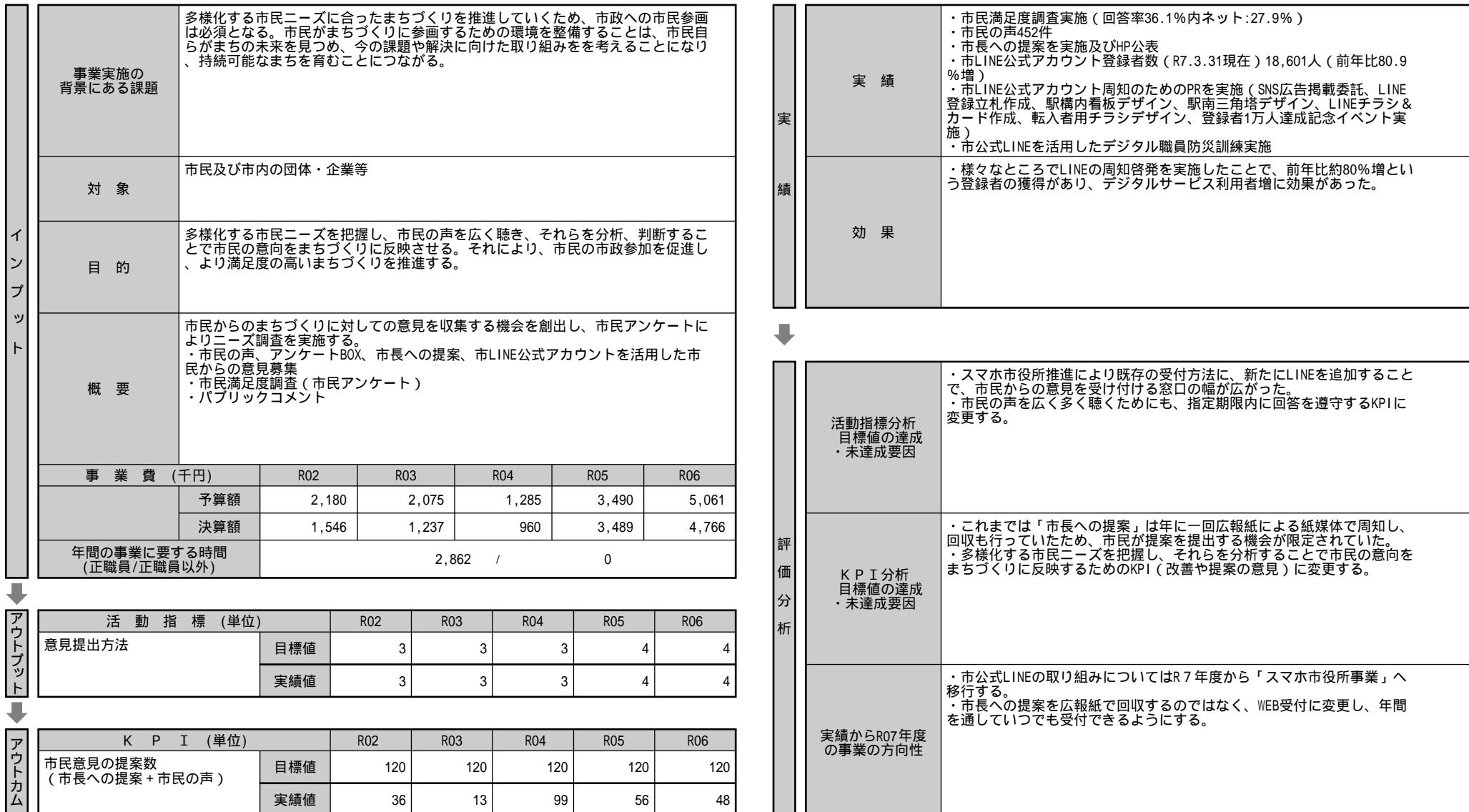
アウトプット

アウトカム

会計区分	01	一般会計
大事業	61	6つのまちづくり宣言
		目指す姿
中事業	20	主要な取り組み
小事業	06	広聴推進事業

令和 6 年度 事業評価書

事業主体	06200000	経営企画部 企画課
01	総務管理費	07 市民まちづくり推進費
	目標値	-



会計区分	01	一般会計
------	----	------

令和6年度 事業評価書

事業主体	06200000	経営企画部 企画課
02	総務費	01 総務管理費 06 企画費
KPI	-	目標値 -
目標年度	令和6年度	

インプット

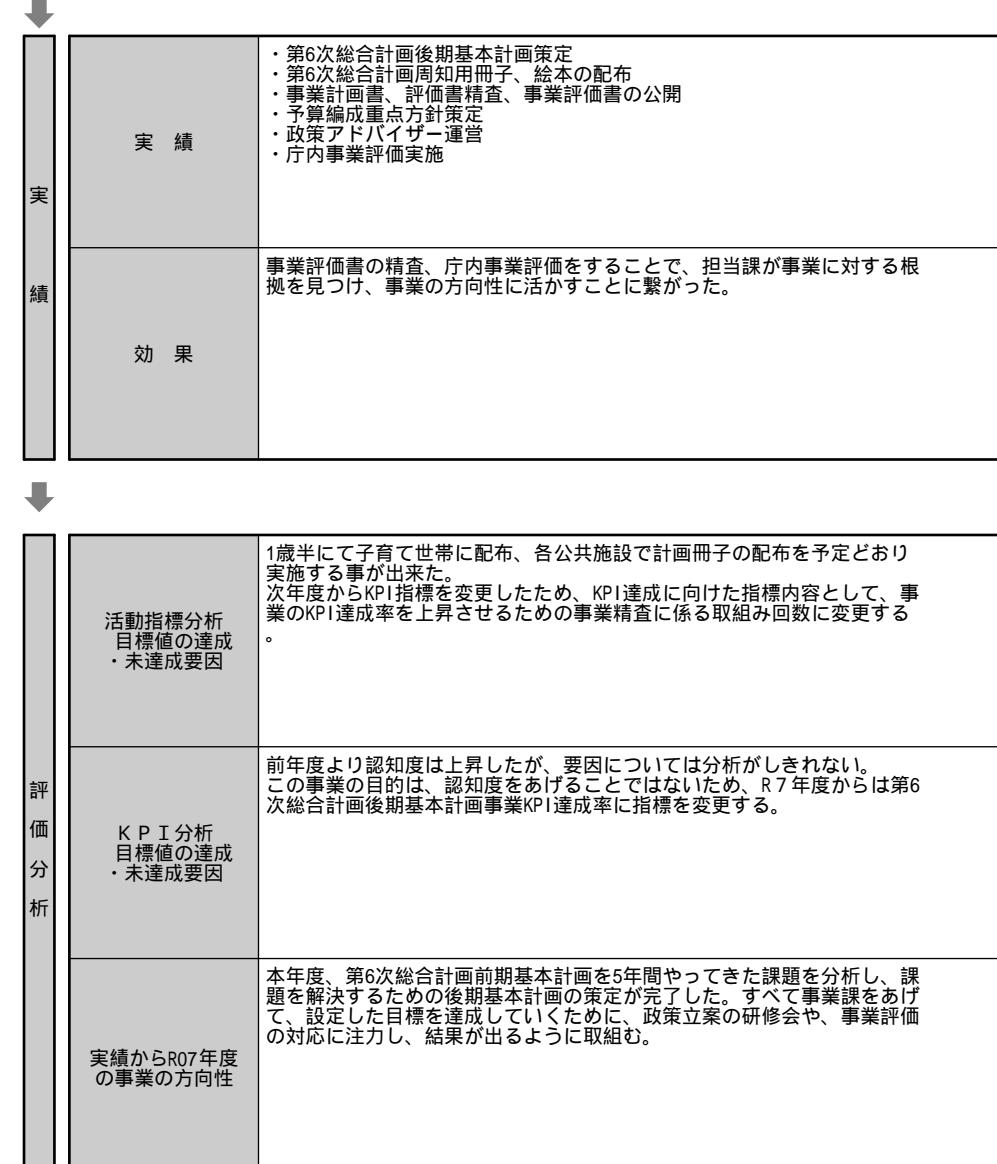
事業実施の背景にある課題	第6次総合計画の目標達成のため、市民に計画を知ってもらい、積極的に事業に参加することが重要。また、実施した事業については、実績や効果を振り返り、次年度に活かすことで効率よく事業を展開していくなければならない。				
対象	市民、企業、職員				
目的	第6次総合計画の目指すべき姿の実現に向け、根拠に基づいた事業を展開していくための進捗管理を行う。また、その過程を市民と共有し、まちづくりへの市民参画を狙うため。				
概要	めざすべき姿を広く市民の皆さんと共有するため、分かりやすく、伝わりやすい「絵本、冊子、動画」をPRする。また、事業の進捗管理を行い、効果的に事業を展開する。 ・冊子、絵本、PR動画を活用したPR ・事業計画書、事業評価書の進捗管理 ・政策アドバイザーの活用 ・第6次総合計画前期基本計画が令和6年度で終了することに伴い、令和7年度から令和11年度までを計画期間とする後期基本計画を策定する。 ・第6次総合計画後期基本計画策定				
事業費(千円)	R02	R03	R04	R05	R06
予算額	1,786	3,467	4,021	1,146	18,619
決算額	1,569	1,967	3,555	579	13,396
年間の事業に要する時間 (正職員/正職員以外)	2,749 / 0				

アウトプット

活動指標(単位)		R02	R03	R04	R05	R06
計画書、絵本の配布数	目標値	2,500	2,500	2,500	1,000	1,000
	実績値	970	970	583	622	761

アウトカム

KPI(単位)		R02	R03	R04	R05	R06
総合計画認知度(%) (市民満足度調査)	目標値	30	35	40	45	50
	実績値	8.3	10.4	12.7	10.4	18.5



令和6年度 事業評価書

会計区分	01	一般会計
------	----	------

事業主体	06200000	経営企画部 企画課
------	----------	-----------

大事業	61	6つのまちづくり宣言	政策体系に基づかないその他の事業	KPI	02 総務費	01 総務管理費	06 企画費
		目指す姿				目標値	
中事業	20	主要な取り組み					
小事業	14	広域連携事業		目標年度	令和6年度		

インプット

事業実施の背景にある課題	行政課題が多様化するなかで、単独の自治体ですべての課題を解決することが困難な状況である。				
対象	市民及び連携自治体住民				
目的	都市間連携・交流を促進することにより当市の認知度を高めると同時に、関係人口を創出し活性化を図る。あわせて、共通の行政課題への対応を図る。				
概要	広域（名古屋圏、可茂広域等）での連携、交流の促進を行う。 ・名古屋圏との連携事業（シェイクアウト訓練、栄まちじゅう音楽広場、ソーシャルキャッスルマーケット）の実施 ・可茂広域行政事務連絡協議会の事務の実施 ・東海環状都市交流連携会議への参加 ・三市（美濃加茂市・閔市・各務原市）連携事業の推進				
事業費（千円）	R02 R03 R04 R05 R06				
予算額			263	238	245
決算額			189	197	33
年間の事業に要する時間（正職員/正職員以外）	200 / 0				

アウトプット

活動指標（単位）		R02	R03	R04	R05	R06
名古屋圏との連携事業数（件）	目標値			3	3	3
	実績値			3	3	2

アウトカム

KPI（単位）		R02	R03	R04	R05	R06
名古屋圏との連携事業の来場者、参加者数（人）	目標値			24,000	24,000	24,000
	実績値			45,275	39,776	38,573

評価分析

実績	実績	【名古屋連携】シェイクアウト訓練実施（参加者数6,573人）、ソーシャルタワーマーケット実施 【三市連携】連携事業検討会議を実施 【可茂広域】可茂広域行政事務連絡協議会の運営 【都市連携】東海環状都市交流連携会議への参加、観光情報の共同発信等
	効果	【名古屋連携】名古屋のテレビ塔下で、市のPRを実施したことで、名古屋圏域に対して一定の認知度の上昇にはつながった。 【三市連携】三市連携による協議を重ね、新たな事業の創出が進んだ。 【可茂広域】可茂広域行政事務組合連絡協議会の運営により、効果的な事務組合の運営を図ることができた。
活動指標分析 目標値の達成・未達成要因	活動指標分析 目標値の達成・未達成要因	栄まちじゅう音楽広場について、学校側の予定と合わなかったため、実績として2事業の実績となった。
	KPI分析 目標値の達成・未達成要因	改めて本事業の目的を明確に定めなければならないが、来場者数や参加者をコントロールすることは困難であるため、目的を見直したうえで再設定をする。
実績からR07年度の事業の方向性	実績からR07年度の事業の方向性	ソーシャルキャッスルマーケットについては、まちづくり課と協議し、費用対効果の面から令和7年度からは不参加とする。 栄まちじゅう音楽広場、シェイクアウト訓練については、改めて事業目的を再確認して、それに合わせた事業の方向性に変更させていく。

会計区分	01	一般会計
------	----	------

令和6年度 事業評価書

事業主体	06200000	経営企画部 企画課
------	----------	-----------

大事業	61	6つのまちづくり宣言	政策体系に基づかないその他の事業	KPI	02 総務費	05 統計調査費	01 統計調査総務費
		目指す姿					
中事業	23	主要な取り組み					
小事業	14	統計事務事業		目標年度	令和6年度		

インプット

事業実施の背景にある課題	膨大なデータは経営戦略や営業戦略を立てる上で貴重な分析材料になるが、上手く活用できなければ効果を発揮しない。データは利活用してはじめて有意義なものになるため、利活用の方法が必須となる。
対象	市民及び関係者
目的	事業立案の際には、「やるか・やらないか」「増やすか・減らすか」といった意思決定が多く、こうした意思決定をデータの利活用に基づいて行った場合、効果的に事業が展開できるようになる。
概要	市の各種統計資料の作成と提供を行う。また、各種統計調査の結果を庁内で共有できる環境整備を実施。 ・美濃加茂市統計書作成 ・統計書ホームページ更新
事業費(千円)	R02 R03 R04 R05 R06
予算額	160 206 243 214 198
決算額	160 206 243 0 198
年間の事業に要する時間 (正職員/正職員以外)	524 / 176

アウトプット

活動指標(単位)		R02	R03	R04	R05	R06
ポケット統計の配布数	目標値	2,200	2,200	2,200	2,000	2,000
	実績値	2,100	1,570	1,221	1,520	0

アウトカム

KPI(単位)		R02	R03	R04	R05	R06
統計書販売数	目標値	5	5	5	5	5
	実績値	5	0	0	0	0

評価分析

実績	実績	・統計書の継続作成(毎年) ・統計書のホームページでの公開による、市民、事業所への情報提供、情報共有。利活用しやすいデータ形式での統計書のデータの公開を開始した。
	効果	統計データ活用の職員向け研修を実施したことで、職員のデータ活用に対する意識は向上したと考える。
評価分析	活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	直近の実績値を鑑みて、ポケット統計の作成を行わなかつたため、目標値は未達成となる。KPIの見直しにより、令和7年度から活動指標を変更する。
	KPI分析 目標値の達成 ・未達成要因	統計書のデータはHPで取得できるため、冊子で購入する人はいなかった。時代の変化に合った情報提供を行う必要であるため、令和7年度からKPIを変更する。
実績からR07年度の事業の方向性	実績からR07年度の事業の方向性	統計データの提供を紙媒体からデジタル化へと移行する。冊子等の印刷を止めて、HPに統計データを見やすく分かりやすいよう掲載して、統計データを取得しやすい環境を整備する。